■■■編　集　後　記■■■

皆様、「第31回技術士全国大会」ご苦労様でした。私たち広報委員も裏方として参加し、無事に、かつ成功裏に終えることができてホッとしております。本号は、「通常号」と「全国大会の報告」を兼ねた合併号としてお届けいたします。

それにしても今年は、台風の多い年でした。特に、全国大会の1週間前に本道を襲った台風18号（9月8日）は、道内各地にも大きな被害を与えました。この台風が全国大会を直撃しなかったのが不幸中の幸いでした。でも、その災害の対応を抱えながら大会準備にあたられた方々は本当にお疲れ様でした（そうゆう自分もその一人ですが……）。いろいろな面で被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。ちなみに台風は過去30年間（1971～2000）の記録によると、年間平均で約27個発生し，そのうち平均3個が日本に上陸するそうです。ところが今年は24個が発生し、そのうち10個が上陸しました（10月22日現在）。これは、たとえが悪いかもしれませんが、今シーズン「262安打」を量産し、年間最多安打記録を更新したマリナーズのイチロー外野手の打率.379を超える確率.417になります。凄い確率ですね。実は、今年最悪の被害をもたらした台風23号のときは、「北方海域技術研究会の現地視察旅行」で長崎・福岡におり、行程の一部がキャンセルになるなどの被害に遭いました。そのおかげで中州の夜を二日間も満喫することができましたが……。

今年の全国大会のテーマは、「社会貢献」でした。「技術士は何ができるか、何をすべきか」、それは台風や地震などの災害に強い「国土づくり」をすることが我々技術士の社会貢献の一つであると痛感しました。

おわりに、本号は本年最後の発行になります。今年一年、当誌にご投稿頂きました皆様にお礼を申し上げますとともに、来年こそは、災害もなく平和な年でありますようにお祈り申し上げます。

第104号編集担当　清野　克徳